

教育実践記録

主体的に学習に取り組む生徒の育成

～合唱コンクールにおける学級のリーダーづくりを通して～

《目次》

1	はじめに	1
2	研究の概要	1
	(1) 主題設定の理由	1
	ア 昨年度の反省から	1
	イ 本校の学校教育目標から	2
	ウ 学習指導要領から	2
	(2) 研究の目的	3
3	研究の実際	
	(1) 合唱コンクールに向けた音楽の授業での取組（全学級）	3
	ア 課題曲の発表と自由曲の選曲	3
	イ 役割の確認	3
	ウ 声部の役割と全体の響きの視覚化	4
	(2) 合唱コンクールに向けた学級での取組	4
	ア 音楽の授業での1年生の取組	4
	イ 目標づくりと作戦	5
	ウ リーダー会議	5
	エ 他学年との交流	5
4	結果と考察	6
	(1) リーダー会議の記録より	6
	(2) キャリアパスポートの振り返りより	6
5	おわり	6

主体的に学習に取り組む生徒の育成

～合唱コンクールにおける学級のリーダーづくりを通して～

1 はじめに

本校では、例年、学習成果発表会と同日に、校内合唱コンクールを開催している。校内合唱コンクールは、「音楽の表現活動としての合唱を通して、その美しさを味わうとともに音楽性を高める。(みつめる力)」「状況に応じて、限られた環境下においても個々が力を発揮し、お互いを助け合う。(つなげる力)」「合唱活動を通して、生徒一人一人がお互いに力を合わせクラスの協力や和を養いながら芸術性を高められた作品を創りあげる力を養う。(みとおす力)」ことを目的にしている。(「みつめる力」「つなげる力」「みとおす力」は、本校が教育活動全般で目指している育てたい3つの資質・能力)この合唱コンクールを通して、一人一人が成長を実感できるようになってほしい。また、合唱コンクールの中で、リーダーとして集団を引っ張っていく生徒を育てていきたいと考えている。合唱コンクールで取り組んできたことを、音楽の授業と学級経営の視点からまとめていく。

2 研究の概要

(1) 主題設定の理由

ア 昨年度の反省から

合唱コンクールに向けた取組では、授業以外にも各学級で、昼休みや放課後等を利用して練習している。また、開催日の約3週間前から、各学級に体育館と音楽室での練習を割り振っている。私自身、昨年度初めて本校での合唱コンクールに携わったが、マスクを外せない状況での授業では、どのような口の大きさなのか、どのような表情なのか分からず、合唱づくりはとても難しいと感じた。そんな中でも、上級生は指揮者を中心に自分たちで合唱表現の工夫を考えていた。一方、私が担任をしていた学級は、こちらから細かい指示を伝え続けていた。昨年度を振り返り、これは生徒が成長する機会を奪ってしまっていたのではないかと反省した。指示を待つのではなく、自分たちで表現を工夫するための基礎を身に付けさせなければならぬと感じた。昨年度に引き続き、今年度も1年生の学級担任となった。2年連続の1年生の担任ということもあり、昨年度の反省を踏ま

え、合唱コンクールを通してリーダーを育成していきたいと考えた。

イ 本校の学校教育目標から

本校の学校教育目標は、「生徒の夢を育み、生徒と地域の未来を創造する教育～成長を実感できる学校～」である。学校教育目標の実現のためには、生徒が成長できたと感じる場面をつくっていくことが必要であると考えた。学校の教育活動全体を通じて、生徒は成長していく。その中でも、一つのことに向かって生徒同士で協力していく行事は、より生徒自身が成長を実感することができると思う。本校は、各学年1学級ずつであるため、体育大会では、学級を半分に分けて2つの団を作り、各団で団結していった。合唱コンクールは、学級でのまとまりが必要になってくる。この合唱コンクールを通して、各学級のリーダーを中心に全員がまとまり、合唱を創り上げていく楽しさを実感してほしいと考えた。

ウ 学習指導要領から

中学校学習指導要領音楽編において、各学年の「学びに向かう力、人間性等」の涵養に関する目標には、第1学年では、「主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにしていく態度を養う。」、第2学年及び第3学年では、「主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、音楽に親しんでいく態度を養う。」と示されている。

合唱では、他者とともに一つの音楽表現をつくっていく体験を通して、イメージを伝え合ったり、協働する喜びを感じたりすることができる。また、合唱は他者とともに一つの音楽表現をつくっていくが、そこには、音楽表現に対する思いや意図に基づく自己の主張と他者との協調とが両立していることが大切である。自己の主張のみでは、他者とともに一つの音楽表現としてまとめたり、その曲固有のよさや美しさを共有したりすることが困難になることも考えられる。一方、他者との協調のみでは、自分の思いや意図が曖昧となり、他者の思いや意図に従うなど他者任せの音楽表現になってしまうことも考えられる。他者と関わりながら、音楽表現を創意工夫して音楽で表したり音楽のよさや美しさを味わって聴いたりできるようにすることが、音楽の学習で重要になる。そのためにも、学級のリーダーづくり、主体的に学習に取り組む生徒の育成が必要となってくる。

以上のことから本主題を設定した。

(2) 研究の目的

音楽の授業で、音楽的な視点から合唱を創り上げていくとともに、学級練習をするために、土台を作っていかなければならない。また、学級練習の時間に学級の生徒のリーダー性を更に高めていくことができると考える。合唱コンクールを通して、生徒一人一人が成長し、学級においてもリーダーを中心に全員がまとまっていくことを目指す。

3 研究の実際

(1) 合唱コンクールに向けた音楽の授業での取組（全学級）

ア 課題曲の発表と自由曲の選曲

1学期の終盤に、課題曲（1年生「マイバラード」、2年生「大切なもの」、3年生「時を越えて」）の発表と、自由曲の候補を提示した。自由曲に関しては、あらかじめその学級に合う曲を選び、学級担任とも相談をし、候補曲を5～7曲に絞った状態で、音楽の授業で聴かせた。音楽を聴く際に、生徒は一曲ずつ一言感想を記入した。その後、候補曲のCDを各学級に配付し、繰り返し聴きながら、自分たちに合う曲を選び、最終決定は、学級で行った。

音楽の授業でそれぞれの曲を聴取する際には、その曲のポイントパワーポイントで提示した。また、歌詞を印刷し、全員が歌詞を見ながら曲を聴くことができるようにしていた。それにより、一言感想の中には、「このメロディーが好きだ。」などの音楽を聴いただけの感想でなく、「この歌詞に共感した。」「励ましてくれるような歌詞だ。」など、歌詞の内容と自分を重ね合わせ、曲の良さを見つけている生徒もいた。自分たちの学級で合唱を創りあげていく曲を真剣に選曲していった。

イ 役割の確認

今年度は、各学級「責任者、指揮者、伴奏者、パートリーダー、合唱メンバー」という役割を考えた。「責任者」は、音楽担当からの連絡を学級に伝えたり、担任の先生と一緒に学級での練習を計画したり、指揮者・パートリーダー・伴奏者と相談しながら練習を進めたりするなど、学級全体の練習をコーディネートしていく役割である。「指揮者」は、担当する楽曲の指揮をし、指揮者の視点から学級練習の時に合唱を指導していく。「伴奏者」は担当する楽曲の伴奏をし、伴奏者の視点から学級練習の時に合唱を指導していく。「パートリーダー」は、ソプラノ・アルト・男声それぞれの担当パートの音程を正確に歌い、楽譜の記号どおりに歌うことを目指しながら、全体の表現を考えたり、メンバーの意見も聞きながら、練習を工夫したりするなど、担当するパートの練習をコーディネートしていく役割である。また、これらの役割を含め、全員を「合唱メンバー」という役割で

あることを伝えた。「合唱メンバー」は、それぞれのパートで気づいたことをできるだけパートリーダーに意見を出していく。リーダーだけに任せず、全員が積極的に活動してほしいと考えた。

また、自分の意思でリーダーになってほしいと考え、「責任者、指揮者、伴奏者、パートリーダー」の希望調査を行った。各学級、生徒たちは積極的に立候補をしてくれ、学級担任と相談をしながら、それぞれの役割を決定していった。

ウ 声部の役割と全体の響きの視覚化

声部には、主旋律や副旋律などの役割がある。主旋律は曲の中心となる旋律のことであり、副旋律は主旋律とは別の旋律のことである。(飾りとなるオブリガートや主旋律にハーモニーをつけるハーモニーの役割などもある。)また、全体の響きを言葉で表すと、いくつかのパートで同じ旋律と一緒に歌う「ユニゾン(斉唱)」、全部の声部と一緒に演奏する「トゥッティ」、旋律がずれて入ったり、追いかけてりする「かけあい」などがある。

どのクラスも混声三部合唱(混声四部合唱)の曲を歌うため、パートが分かれていく。その時に、自分のパートを歌うだけでは、合唱にはならない。他のパートとの音の重なりで、合唱に厚みが出てくる。「自分のパートがハーモニーを歌っている時の主旋律はこのパートだから、主旋律のパートとの音のバランスを考えて歌おう。」など他のパートとの関係性も考えなければならない。練習中、パートリーダーが指示を出しやすいように、パート毎に色を分けた楽譜を一人一人に配付した。(資料1)

(2) 合唱コンクールに向けた学級での取組

ア 音楽の授業での1年生の取組

1年生は、混声三部合唱自体が初めてであるため、まず合唱の響きを味わう活動を行った。範唱を聴いて、気に入ったところや印象に残ったところを記入し、聴き手の印象に残る合唱にするためにどのように工夫するとよいかを考えさせた。その後、ユニゾン部分を全体で音取りし、分かれたところから各パートに分かれて音取りをした。

また、1年生は合唱コンクール自体が初めてであるため、昨年度の合唱コンクールの様子を伝えるために、昨年度最優秀賞だった学級の映像を見せた。合唱の場面だけでなく、出入りも含めて映像を見せ、姿勢も大切であることを伝えた。合唱の響きだけでなく、伴奏者や指揮者の動きの確認もできた。生徒からは、「指揮がすごかった。」という意見がたくさん出た。その中から、指揮をやりたいという思いを持った生徒もいた。

イ 目標づくりと作戦

学級開きで生徒に、笑顔溢れる明るい学級にしたいということや、お互いのことを認め合い、楽しく学校生活を送ってほしいことを伝えた。年度当初に学級目標をつくり、1年生は「信友～笑い語ろう～」に決まった。この目標は、お互いに信頼し合える友だちになり、笑顔で学校生活を過ごしていきたいという意味が込められている。その学級目標を念頭に置いた上で、合唱コンクールのクラス目標を決めていった。責任者の司会で、目標づくりを進めていった。個人や班で考えを出し、全体で共有していき、「届けよう信友と共に～We are singers!～」に決定した。(資料2)

また、学級全体で取り組むことができるような活動や作戦を考えた。「お風呂で歌う」「登下校の時間に歌う」「昼休み、放課後に練習をする」「朝や給食の時、昼休みの間など空いた時間にCDを流す」などの意見や、「自分たちの歌を聴く」「違うパートの人と歌う」「少人数で歌う」などの具体的な練習方法についても意見が出た。責任者であるという自覚を持たせるために、進行表を作った上で、責任者に話し合いの司会を任せた。また、パートリーダーに協力してもらい、司会の補佐をしてもらった。また、練習方法に関しても、やらされているという感覚を持たないようにするために、生徒から出た意見を取り入れていった。さらに、各リーダーが、自分たちが全体を引っ張っていくという意識を高めさせるために、一人一人リーダーの決意表明を行った。(資料3)

ウ リーダー会議

体育館や音楽室での練習が始まり、合唱コンクール開催日の約3週間前から、放課後に合唱リーダーでリーダー会議を行った。リーダー会議初日は、教師が司会を行った。約束事として、陰で悪く言ったり、言い争ったりしないために、リーダー会議の場で意見を出し合うこと、発言の際には、言葉遣いに気を付けることを伝えた。2日目からのリーダー会議での司会は責任者が行った。リーダー会議では、その日の練習の良かった点や改善点などを出し合い、次の日の練習内容や目標を決定し、練習場所や練習時間の確認も行った。また、リーダー以外から出た意見などもリーダー会議で共有していった。

エ 他学年との交流

学級だけで練習をするだけでなく、2年生、3年生との交流を行うことにした。交流会では先輩の合唱を聴き、下級生にとってよい模範となった。他の学年の合唱を見ることにより、お互いに刺激をもらうことができた。また、お互いにアドバイスを言い、更に意欲が増しているように感じた。

4 結果と考察

合唱コンクールでは、3年生が最優秀賞を受賞した。1年生は一体感があつたクラスに贈られるチームワーク賞を受賞した。各学級、これまでの練習の成果があらわれ、心動かされる歌声だった。今回の取組の成果を、リーダー会議の記録とキャリアパスポートの合唱コンクール振り返りから示す。

(1) リーダー会議の記録より

音楽の授業の時は、パート練習を行う時に、パートリーダーを中心として練習することができていた。しかし、昼休みや放課後の練習では、遅れてくる生徒がいたため、時間通りに全員が揃った練習をすることが少なかった。また、練習の際、声が出ていない生徒もいた。10月24日(月)のリーダーノートには、「ソプラノ・アルトのハーモニーは感じた。」と良かった点が書かれていた。しかし、「男声の音が聞こえなかった。」「全体的にはっきり歌う。」「団結力も必要。」「一人一人に任せない。」「態度を直す。」など改善点も多く出されていた。この時のリーダー会議では、リーダー自身がどのような気持ちで練習に臨んでいるか再確認し、時間をかけてお互いに本音で話し合いを行った。最後には、リーダーノートに、「私たちはまとめるのが仕事！」と書いていた。(資料4(1))

次の日の10月25日(火)のリーダーノートには、「まとまっていた。」「男声の音が聞こえてきた。」「綺麗だった。」「3種類の音が聞こえた。」など、良かった点が増えていた。(資料4(2))積極的にリーダーが声かけを行っていた。

生徒同士(リーダー)で話し合いをした日以降の合唱は、全体でのまとまりが出てきた。学級全員が同じ目標を目指しているように感じた。

(2) キャリアパスポートの振り返りより

キャリアパスポートの学習成果発表会の振り返りにおいて、責任者は、「みんなをまとめる事を意識して頑張れた。」、男声パートのリーダーは、「自分自身もリーダーとして男声パートを支えるために精一杯声を出しました。」、女声パートのリーダーは、「精一杯の声を出して、自分が歌を引っ張るくらいの気持ちでやれた。」と感想を記入していた。リーダーとしての自覚とともに、やり遂げた達成感を味わっているようだ。また、アルトのパートリーダーと自由曲の指揮を務めた生徒は、「男声の人たちがすごく声を出してくれて、女声は感動しました。」と自分のパートだけでなく、他のパートにも目を向けている姿が伝わってきた。また、リーダー以外の生徒の中にも、「みんなで授業や昼休みを使い協力して、良かったところ、改善点をみつけ、もっと良くすることができた。みんなで協力することがすごく楽しかったです。」と感想を書いている生徒もいた。(資料5)

責任者、指揮者、伴奏者、パートリーダーのそれぞれが、リーダーとして

の自覚をもつとともに、リーダーを中心に全員がまとまり、合唱を創り上げていく楽しさを生徒たちは感じていた。一人一人が成長を実感できる合唱コンクールとなった。

5 おわりに

今回、実践を振り返る機会をつくってくださった八代市教育サポートセンターの先生方、たくさんの方を様々な面から指導、アドバイスしていただいた本校の先生方には、心から感謝している。

この合唱コンクールを通して、一人一人が成長したと実感できたのではないだろうか。また、合唱コンクールの中で、リーダーとして集団を引っ張っていく生徒が育っていったと感じている。実際に、今回、合唱コンクールでリーダーを務めた生徒が、生徒会役員改選に立候補をし、今度は学校全体を引っ張っていこうとしている。

合唱コンクールは、音楽の授業だけで行うものではないと実感した。しかし、音楽の授業では、音楽を主体的に捉え、音楽の特徴に気づき、どのようなことを感じ取り、自分にとってどのような存在なのか表現することを積み重ね、心を豊かにしていき、感性を育むことができる。合唱では、他者ととともに一つの音楽表現をつくっていく体験を通して、イメージを伝え合ったり、協働する喜びを感じたりすることができ、他者と関わりながら、音楽表現を創意工夫して音楽で表したり音楽のよさや美しさを味わって聴いたりできる。これが音楽科のよさだと感じている。学級経営においても、積極的に集団を引っ張っていくリーダーを育成していきたい。さらに、合唱コンクールを通して生徒が成長できるように、更に研究を続けていきたい。

【引用・参考文献】

- ・堀内久美雄（2019）『最新中等科音楽教育法 2017/18年告示「中学校・高等学校学習指導要領」準拠中学校・高等学校教員養成課程用』第1刷、音楽之友社。
- ・宮下俊也（2018）『平成29年改訂中学校教育課程実践講座音楽』第1刷、ぎょうせい。
- ・文部科学省（2018）『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説音楽編』初版、教育芸術社。

教育実践記録

主体的に学習に取り組む生徒の育成

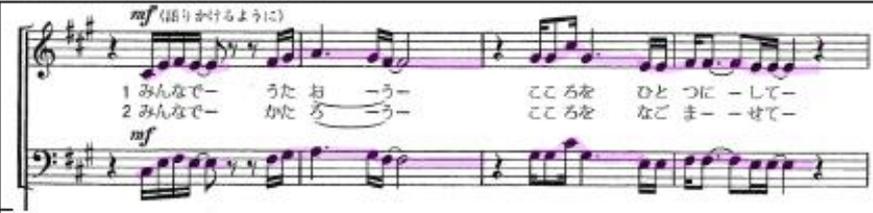
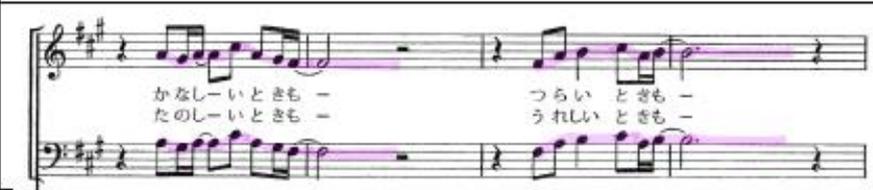
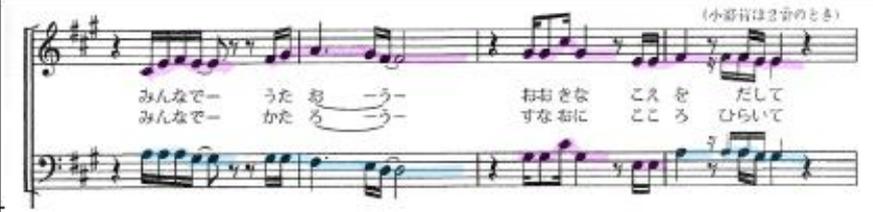
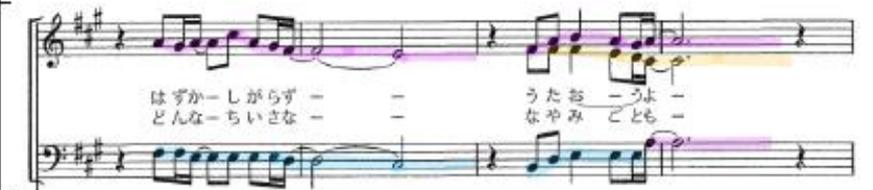
～合唱コンクールにおける学級のリーダーづくりを通して～

添付資料

資料 1 ① 声部の役割と全体の響きの視覚化

「マイバラード」 () パート 1年1組 番()

1. 声部の役割を理解しよう!

<p><i>mf</i> (語りかけるように)</p>  <p>1 みんなでー うた おーうー ころを ひと つにーしてー 2 みんなでー かた ろーうー ころを なごまーせてー</p>	
 <p>かなしいときもー つらいときもー たのしいときもー うれしいときもー</p>	
<p>(小節首は3分のとき)</p>  <p>みんなー うた おーうー おおきな こえを だして みんなー かた ろーうー すなおに ころ ひらいて</p>	
 <p>はずかーしからずーーー うたおーうよー どんなーちいさなーーー なやみーごともー</p>	

資料 1 ② 声部の役割と全体の響きの視覚化

♩ (リズムにのって) (広がりをもって)

⑧ ころもえる うたが うたが きつと きみの もとへ きらめけ -せかい
 ころいたお おもい たとえ きみをくし めても なかま が -ここに

じゆうに ぼくの -うたを のせて- きらめけ -せかい
 いるよ いつも -きみを みてる- ぼくらは -たすけ

1. じゆうに とどけ -あいのメッセー ジ
 あって いきて -ゆこういつまで も

♩ Coda (空をのって) *molto rit.* *mf* **Lento** *p*

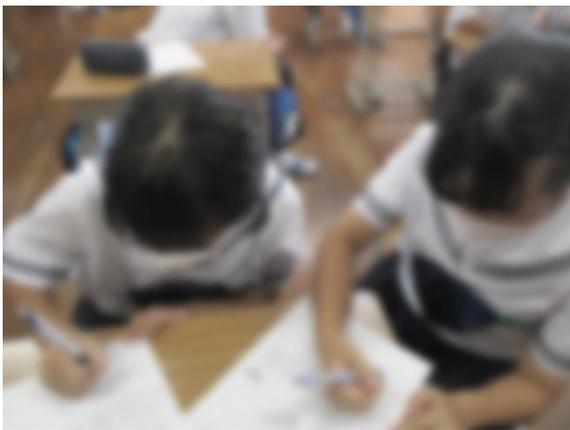
じ とどけ あいのメッセー ジ Hum. *p*

♩ A.C.S.

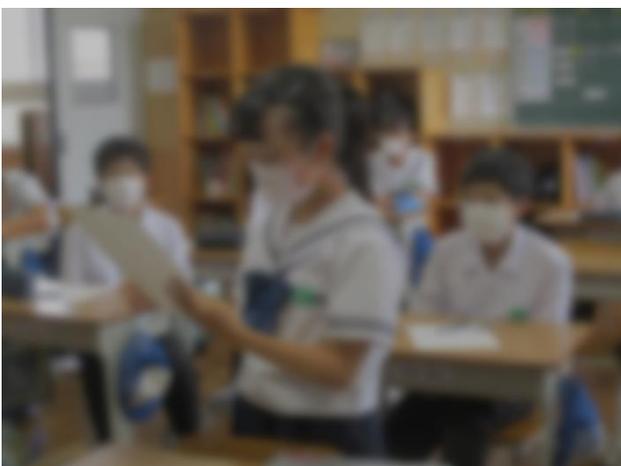
資料2 目標づくり（写真は、ぼかしています。）



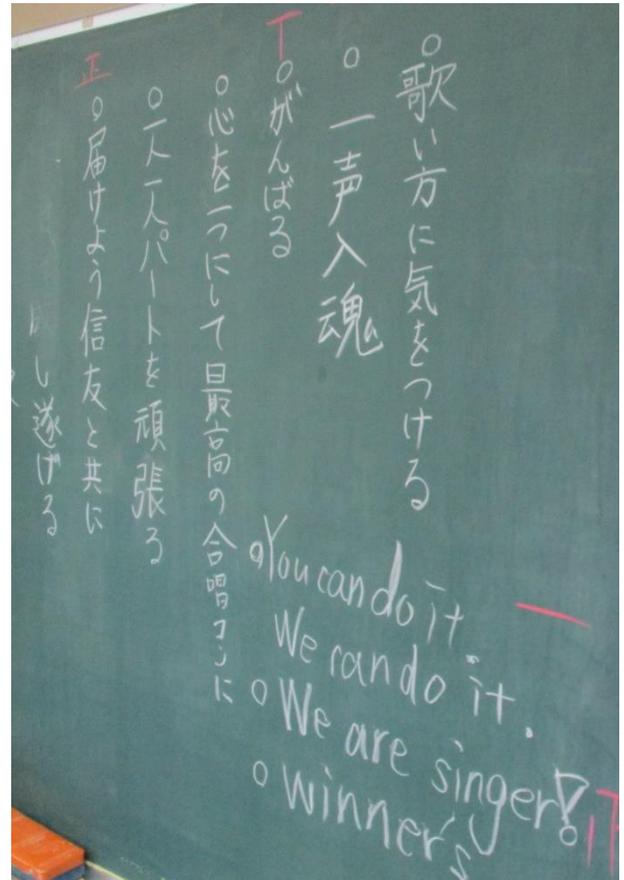
責任者が司会をしています。



近くの人と意見を交換している様子



発表の様子



資料3 決意表明（写真は、ぼかしています。）



資料4 (1) リーダーノート

～1年1組練習の記録～

10月24日(月)	今日の目標：心を合わせる
練習時間・場所	朝・ 昼 (体・音・教)・ 放 (体・音・教)
内容	<p>① パート練</p> <p>② 全体練習</p> <p style="text-align: right;">私達はまとめるのが仕事!</p>
良かった点・改善点など	<p>① 2種類(ソプラノ・アルト)のハーモニーは感じた。</p> <p>② もう1種類(男声)の声が聞こえなかった。</p> <p>・全体的にはっきり歌う。</p> <p>・団結力も必要。</p> <p>・一人一人にまかせない。自主練!</p> <p>・自信を持つ。</p> <p>・態度は絶対直す。(マジで!)</p> <p>・心を入れ換える!(絶対に...)</p> <p>・思春期が関係ない。</p> <p style="text-align: right;">みんなて頑張り</p> 

～1年1組練習の記録～

10月25日(火)	今日の目標: 甘ボってる人を出さない!
練習時間・場所	朝・ 昼 (体・音・教)・ 放 (体・音・教)
内容	<p>昼 内陣を組む → パート練</p> <p>放 合わせる → 一言感想 → 解散</p>
良かった点・改善点など	<p>良 ・まとまっていた きれいだった ・男声の声か聞こえた 3種類の声か聞こえた ソプラルのハーモニーかできていた 声か出た ・勝てそうだと思った ・昨日の反省か ・みんなの声か聞こえた ・一人一人か声出し もっと満ちてくできるようにする</p> <p>改 もっと自信をもつ ・入るタイミング ・指揮者を見る ・もっと一人一人か声を出す</p> 

合唱コンクール	<p>みんなをまとめの事 を一言でして元気が れた</p>
---------	---

合唱コンクール	<p>自分自身も男声パートのソ ーダとして支えるために 精いっぱい声を出しました。</p>
---------	---

資料 5 ②

キャリアパスポートの振り返りより

合唱コンクール	精一杯の声を出して、 自分が歌をひたひたまで 思いやりを持って出したこと。
---------	---

合唱コンクール	男声のところが声を出さず 声を出さず女声は声を出さず 声を出さず
---------	--

◆学習成果発表会（紅葉祭）を通じて自分が気付いたこと、今後に生かしていきたいこと

みんなで、授業や昼休みを使い、協力して、良かったところ、
 改善点を見つけ、もっと良くすることができた。みんなが協
 力することがすごく楽しかったこと。